

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	熊本県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	八代市立第一中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	8	8	8	2	24	46
生徒数	290	296	292	3	881	

II 研究の概要

1. 研究主題

生徒の意欲を引き出す指導と評価について

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

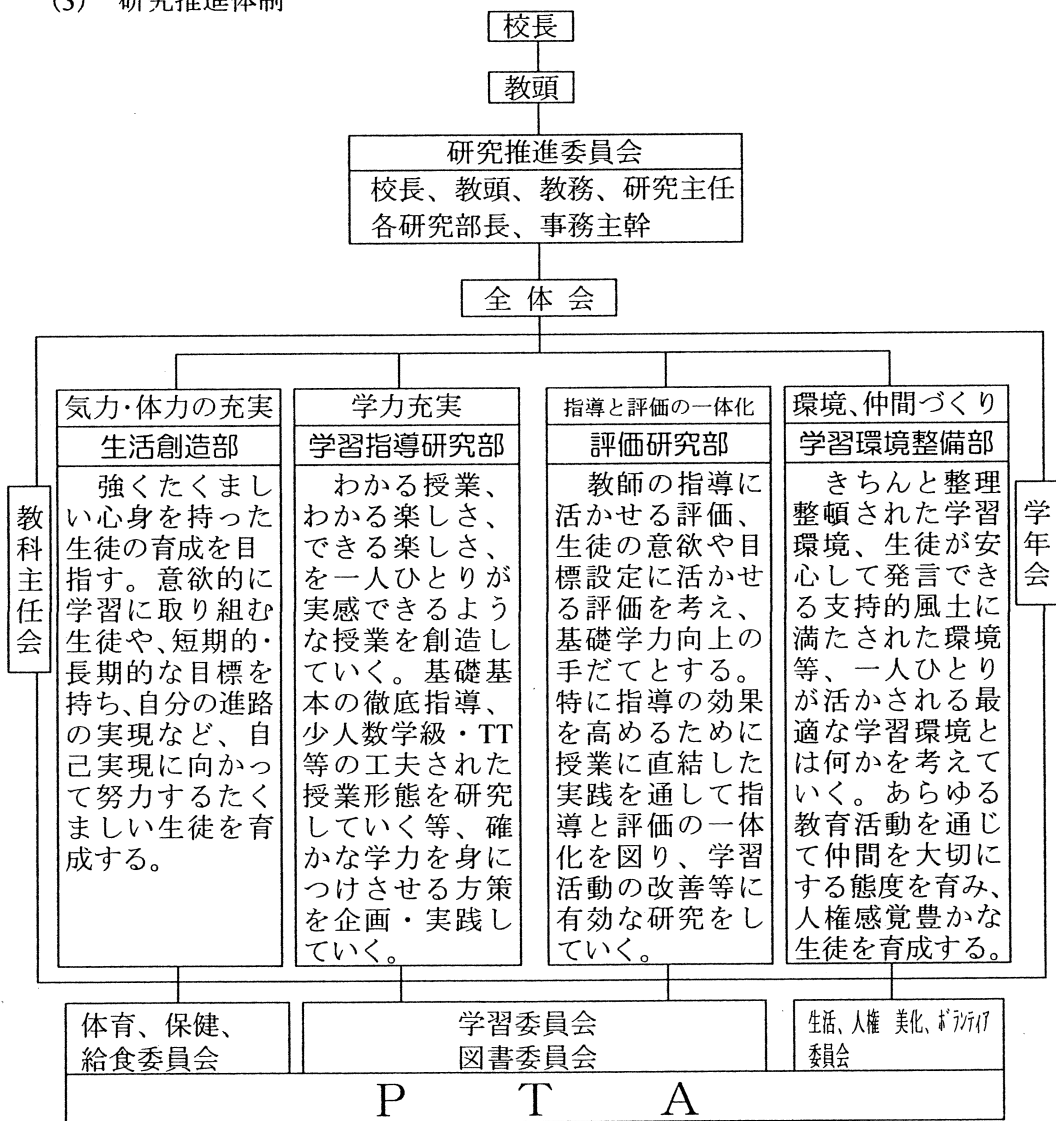
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生数学 3年間を見通した場合、1年生の基礎・基本を確実に身につける必要があると判断したため。 ・ 2年生英語（前期） 生徒の学力検査などの実態調査の結果から、習熟度別指導が必要と判断したため。 ・ 1年生英語（後期） 1年生後半から徐々に差が出やすい教科であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	○ テーマ 「生徒の意欲を引き出す指導と評価について」
	○ 研究の見通し ①教師の指導力向上のために、授業研究会を計画する。授業展開を工夫し、わかる授業の創造を目指す。 ②少人数指導、習熟度別指導を導入し、個に応じた指導方法の改善を図る。 ③指導に生かす評価、意欲を引き出す評価のあり方を研究する。
平成15年度	○ 研究の内容・方法 ①各教科各学期2回ずつの授業研究会を行い（1学期は1回）、教師の指導力の向上と基礎基本の確実な定着を図るための方策と研究を進める。生徒の主体的な学習である能動型学習を取り入れた、メリハリのある授業展開を推進する。 ②個に応じた指導とそのため教材開発に取り組むとともに数学科と英語科を中心とした少人数指導の研究に力を入れる。 ③「指導と評価の一体化」をふまえ、指導に生かす評価のあり方、また生徒の意欲を喚起する指導と評価のあり方を探る。また、ゆうチャレンジ（熊本県独自の評価問題）などの結果を指導に生かす。 ④少人数教室などの整備を進めるとともに、生徒の自主的・意欲的な学習を支援するための補充指導体制の充実に努める。 ⑤PTAと協力し、地域への授業公開や地域人材の積極的な活用などを推進する。また自らの将来の生き方を考えるため、社会で活躍する本校の卒業生の講話を設ける。

平成 16 年 度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ 「生徒の意欲を引き出す指導と評価について」 ○ 研究の見通し 平成15年度の研究をふまえ、次の事項を重点化していく。 ①授業における指導過程の工夫と個に応じた指導のあり方について ②自ら課題を見つけ、自ら学ぶ生徒を育成するための指導と評価の研究 ③基礎基本を定着させるための、柔軟な教育課程の編成 ④少人数・習熟度別指導における、指導と評価の研究 ○ 研究の内容・方法 平成15年度の研究に加え、次の事項を実践していく。 ①授業研究会を実施し、研究テーマの検証と個に応じたきめ細かな指導を研究していく。 ②生徒が自らの課題を把握できるような教師の支援のあり方を研究し、生徒が自ら学ぶ習慣を身につける手だてを行う。 ③基礎学力を身につけるためのドリル学習及び、効果的な時間割の編成を工夫する。 ④少人数指導・習熟度別指導を充実させ、生徒の学習意欲を喚起するため、確実な基礎基本の定着を図るとともに、発展的な内容の教材開発を行う。
--------------------	---

(3) 研究推進体制



Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- 研究授業に積極的に取り組んだり、始業のチャイムで授業を始める、授業を大切にするといった教師の意識にプラス面の変化が見られた。
- 研究授業を通して、評価場面や評価方法、何で評価するのか等、意識が高まった。また、知識理解のみならず、思考・判断・意欲・関心を伸ばそう、評価しようとするに改善が見られるようになった。
- 各教科で評価基準、評価方法を統一しようとする教師の意識が高まった。
- 少人数指導、習熟度別指導に対し、生徒や保護者からの反応はプラス面が多かった。
- 英語や数学の少人数および習熟度別指導への取り組みが、補充や発展を含む個に応じた指導や教材開発、指導に生かす評価について成果を上げている。
- 教師の中に授業に取り組む意欲が高まり、それが生徒の意欲の高まりにもつながっている。

【少人数指導等による成果】

本校では2学期までに、1年生において数学の少人数指導、2年生において英語の少人数指導（習熟度別指導）を実施した。アンケートの結果及び考察を以下に述べる。

教科・コース	ためになっている	まあまあ
数 学	32.4%	64.7%
英 語	22.9%	62.8%

- (1) 数学(97.1%)、英語(85.7%)の生徒が「役に立った、まあまあ役に立った」と答えている。その理由の内訳は次のようになっている。(複数回答可)

◆数学

- 1、勉強がわかるようになった(42.4%)
- 2、わからないところをそのままにせず、先生や友達に聞くようになった(39.4%)
- 3、学習プリントが自分に合っている(33.3%)
- 4、先生がわからないところを教えてくれる(27.3%)
- 5、先生に質問しやすい(21.2%)
- 6、家で勉強するようになった(2.9%)

◆英語

- 1、学習プリントが自分に合っている(60.0%)
- 2、わからないところをそのままにせず、先生や友達に聞くようになった(43.3%)
- 3、勉強がわかるようになった(33.3%)
- 4、先生に質問しやすい(28.3%)
- 5、先生がわからないところを教えてくれる(23.3%)
- 6、家で勉強するようになった(15.0%)

- (2) 英語の授業は、毎時間習熟度別による授業を行っており、個に応じた指導という観点から、英語科ではワークシートを3種類作成し、自分にあったものを選ぶことができるようにしている。その結果、自分のレベルに応じた学習ができ、理解を深めることができた。数学科では章のまとめを習熟度別に行っており、普段は1クラスを2つに分け、きめ細かな指導ができる授業形態をとっている。少人数指導が始まり、先生に質問しようとする積極的な態度が見られるようになった。わからないところをどうにか解決しようという取り組みの変化が数字からわかる。

(子ども、保護者、教員の意識等の評価)

- (1) 「授業に集中できるようになりとてもよかった。楽しくてわかりやすい。ずっと少人数で授業をしてほしい。」などの意見が生徒から多く聞かれ、自分の学力に合った授業が受けられる安心感がある。
- (2) 1学期に調査した結果、少人数指導に対する肯定的な意見は61.6%にとどまっていたが、今回90%前後の「役に立っている」という結果が見られた。
- (3) 保護者の方から「学習しやすく、楽しみにしているようである」という意

見が聞かれ、少人数学習に対する肯定的な意見が478名（アンケート回収率80%）に対して、「必要ない」という意見が20件であった。圧倒的に保護者からは指示を受けている学習形態だと言える。

2. 今後の課題

- 少人数指導、習熟度別指導において、指導目標、評価の観点等改善すべき点が多かった。評価のあり方など今後考えなければならない点が多く残っている。
- 日常の多忙の中、補習や補充指導の時間がなかなか確保できない。発展的内容や補充指導を意識した選択教科のあり方や弾力的な時間割の編成などをこれから考えていかなければならない。
- すべての教科において、個に応じた指導を実践していく手だてを考える必要がある。
- 学力の定量的評価を定期的に行い、それを指導に生かす工夫が必要である。
- 「意欲」を引き出す手だてに関する理論的背景及び実践の蓄積が求められる。
- 全体研修は計画的に実践できているが、各部会がそれぞれ多忙なため計画的に進まない面が見られる。

【少人数指導等による課題】

アンケートに対して「ためになっていない」と回答した生徒が、英語で14.3%、数学で2.9%いるのは事実である。ガイダンスの時間を十分取っての開設だったので、内容に対する不満はあまりないが、実際授業を受けて次のような意見が出てきた。特に英語では毎時間、習熟度別指導になるので自分に合わないコースを選択したと感じている生徒に対しては、早急な対応が必要になる。

◆数学

- 他のクラスの人がいて発表しにくい。
- プリントにポイントを書いてほしい。
- 学習シートの数が多かった。
- ただ問題を解くだけで、以前とあまり変わらない。

◆英語

- 少し難しいので、もう少しゆっくり進んでほしい。
- もう少し文法を詳しく教えてほしい。
- もう少し学習プリントを増やしてもいいと思う。
- プリントはもう少し難しい方がよい。

- (1) 特に習熟度別指導の場合、英語では「慣れようコース（基礎）」、「親しむコース（定着）」、「挑むコース（発展）」の3つに分かれるが、若干ではあるがコース変更を希望する生徒は基礎と発展に多い。難易度が予想したものとは違っている場合があるようだ。特に、基礎コースでは「もっと難しいものを」、逆に発展コースでは「難しいのでもっとゆっくり」といった意見がみられた。
- (2) 数学では章のまとめを習熟度別で行うため、2クラスを3つのグループに分けたとき、他のクラスの生徒に遠慮する姿が見られる。

(子ども、保護者、教員の意識等の評価)

- (1) 生徒の希望が中心であったが、若干自分の学力にあったコース選択をしていない生徒が見られた。話し合いを通してだいぶ改善されたが、少人数指導の目的をきちんと理解させる必要がある。
- (2) 保護者の中には少数ではあるが「少人数指導は賛成だが、習熟度別指導は差別分団を促すのではないか。先生によって教え方も違うので、同じように学力が身につくのか心配である」等の意見が見られる。
- (3) やはり個々に応じた指導は難しいし、打ち合わせの時間を確保し話し合う時間がなかなかとれないことが悩みである。習熟度別の場合、評価をどうするかはこれからの検討課題である。

IV 学力把握のための学校としての取組

- ・全学年、5教科において4月に全国標準学力検査を行っている。
- ・毎年、基礎基本がどれくらい定着しているかをみる、熊本県独自の評価問題「ゆうチャレンジ」を実施している。本年度は12月に実施し、分析後、指導に生かすようにしている。
- ・年5回の定期テストを実施し、生徒の学力の把握に務めている。観点別に問題を作成し、指導と評価に生かしている。

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・毎学期、地域や保護者の方に対し、授業を公開する日を設けている。本年度は特に英語と数学の少人数・習熟度別指導の授業を公開し、自由に参観していただいた。
- ・「いきいき学習やつしろセミナー」
「日時：平成15年 8月1日（金）
場所：八代市 ハーモニーホール
対象：教職員、学校評議員、その他地域で参加を希望する者
内容：基礎基本の確実な定着のための指導方法の工夫改善に関する研修
有田和正先生の講演、地域のフロンティアスクールの取り組みの紹介
- ・「授業研究会」
日時：平成16年 2月17日（火）
対象：市内小中学校校長、数学科・英語科の教職員
内容：英語と数学の習熟度別指導の授業を参観してもらい、研修を深める

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T. Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無